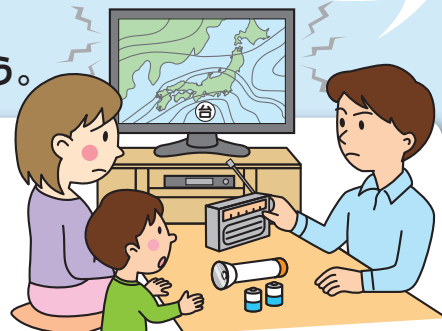


風水害・台風

まずは、確実な情報が大事
その次に迅速な対応

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。



「大雨情報をキャッチ!!」 こんなときのわが家の安全対策。

大雨注意報

大雨による土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表

大雨警報

大雨による重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれがあると予想したときに発表

大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合に発表

■ 記録的短時間大雨情報とは・・・数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測したり、解析したりしたときに、各地の気象台が発表します。熊本県区域の発表基準は、1時間雨量110mmとなっています。

雨の強さと降り方

時間雨量 (mm)	10 以上～20 未満	20 以上～30 未満	30 以上～50 未満	50 以上～80 未満	80 以上～
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。

風の強さと吹き方

平均風速 (m/秒)	10 以上～15 未満	15 以上～20 未満	20 以上～25 未満	25 以上～30 未満	30 以上～
予報用語	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風
人への影響	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	何かにつかまってないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。		屋外での行動は極めて危険。

台風の大きさと強さ

台風は、毎年のように日本に襲来し、きわめて大きな災害をもたらすことがあります。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型 (大きい)	本州がまるごと覆われる	強い	33m/秒 以上～44m/秒 未満
超大型 (非常に大きい)	北海道から九州までが覆われるほどに匹敵	非常に強い	44m/秒 以上～54m/秒 未満
		猛烈な	54m/秒 以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ◆ ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- ◆ 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- ◆ 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- ◆ 非常時持出品を準備しておく。
- ◆ 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- ◆ 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- ◆ 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- ◆ 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

つねに気象情報には、
注意しておきましょう!



地下道 (アンダーパス) にも注意!

アンダーパスとは、道路や鉄道など立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行困難になりますので注意が必要です。